

BRIG
High Performance Brakes

BRIG HillClimb Challenge Series

BRIG ヒルクライムチャレンジシリーズ 2018 第4戦

第14回 マウンテンクライム in 長谷 大会プログラム

2018. 7. 7 Sat. 開催



主催 マウンテンクライム実行委員会
運営 K' sRacingTeam
協力 J A F 加盟フレンド・ラリー・クラブ (F.R.C.)
協賛 株式会社ブロンコ・バスター
ブリヂストンタイヤ長野販売
住友ゴム工業株式会社
有限会社オートヤマ
仙流荘
道の駅南アルプスむら
株式会社ヤマテ工業
株式会社和光ケミカル
株式会社キャロッセ
PIAA 株式会社
株式会社 IHI ターボ
株式会社ミラリード
株式会社 K' sFACTORY

競技結果速報 URL

<http://hillclimbchallenge.com/p-result/mc2018/>



モータースポーツには危険が伴います。

観戦を希望される方は十分にご理解された上でご入場下さい。

観戦中に起きた事故等によるケガなどに対して主催者及び道路管理者には一切責任を追及しない旨ご了承下さい。

大会の名称 **BRIG ヒルクライムチャレンジシリーズ 2018**
第 14 回マウンテンクライム in 長谷

大会役員	大会会長	丸山 和彦	(株式会社ブロンコ・バスター)
	大会監修	清水 和彦	(フレンド・ラリー・クラブ)
	実行委員長	鈴木 一也	(株式会社 K'sFACTORY)
	実行委員 (コース)	行徳 聡	(株式会社 K's FACTORY)
	実行委員 (計測)	齊藤 孝太	(K'sRacingTeam)
	事務局	伊豆野 康平	(株式会社 K'sFACTORY)

クラス分け (エキスパート/ノービス/オープン/EXTREME)

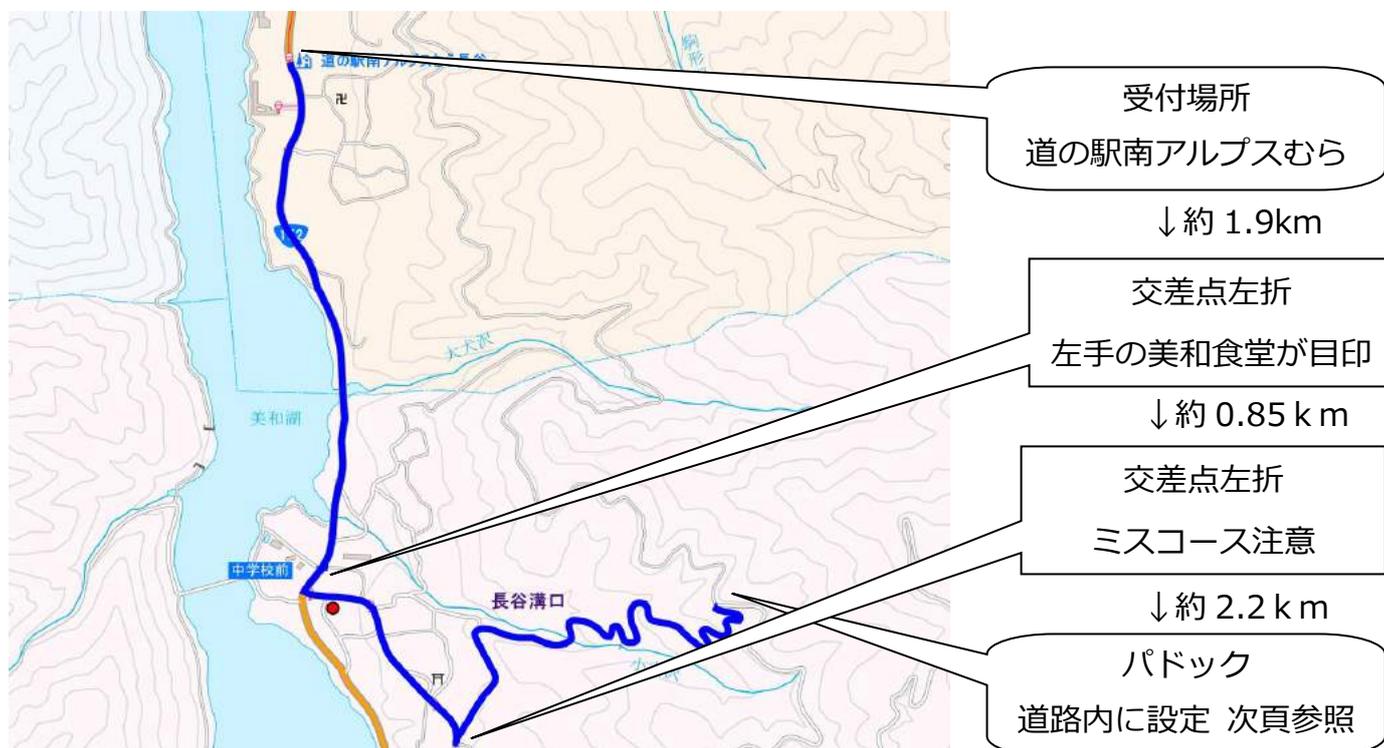
- (1) A クラス 1500cc以下の車両
- (2) B クラス 1500ccを超え2500cc以下の車両
- (3) C クラス 2500ccを越える車両
- (4) D クラス クラシックカー (初年度登録 昭和63年 以前)
(加給装置装着車両については、1.7倍の倍率とする)

受付 7:30~9:00 → パドック内にて車検 7:40~9:20

パドックに駐車後、車検の準備が出来た方はボンネットを開けた状態、もしくはルーフにヘルメットを置いてお待ち下さい。スタッフが巡回して車検を実施します。

ドライバーズブリーフィング 9:30~

このプログラムと競技概要をお持ちになり、ブリーフィングにご参加ください。



◆パドック・スタート周辺図◆

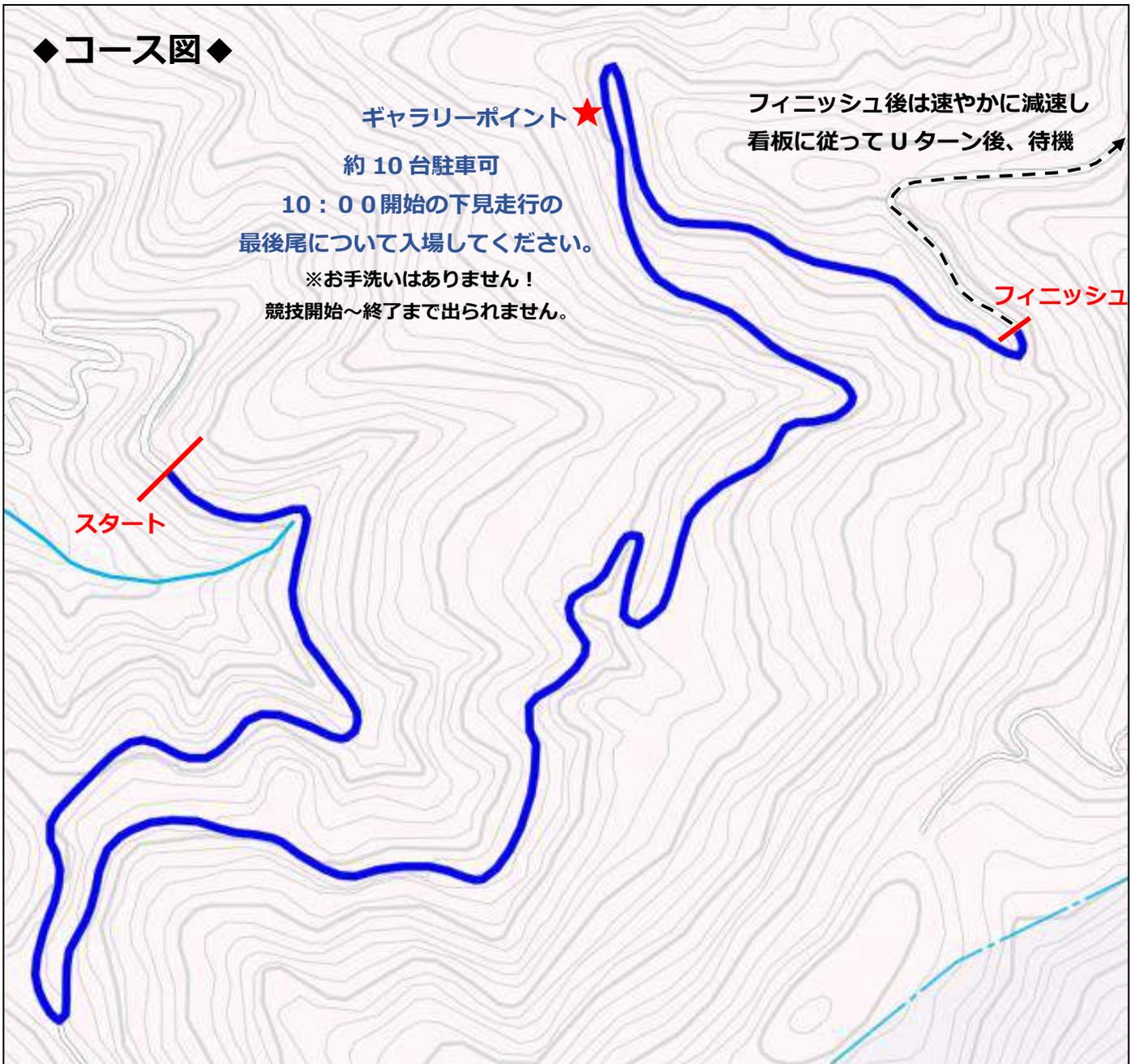
※パドックはゼッケン順に番号を割り当てています！



道路左端もしくは道路外の空きスペースを使用してください。
No.1~45の車両は自車パドックでタイヤ交換を行ってください。

車両は道路左端に停めてください。
タイヤ交換スペースは、譲り合って使用してください。
往来・Uターンはオフィシャルの指示に従って移動してください。

◆コース図◆



タイムスケジュール

(1) 集合場所	道の駅南アルプスむらで受付後、パドックへ移動
(2) 受付	7:30~9:00
(3) 車検	7:40~9:20
(4) ドライバースブリーフィング	9:30~ パドック中程で実施
(5) 下見走行(コンボイ1回・移動時間含む)	10:00~
(6) 昼食	競技開始前に配布
(7) 競技スタート予定時刻	1回目 12:00 ~
(8) 競技スタート予定時刻	2回目 14:30 ~
(9) 表彰式	17:00頃 パドック中程で実施

今大会の見どころ

D (ヒストリック) クラス : エントリー7台

大会のオープニングともいえるDクラス。篠原選手レビンと田中選手スカイラインが揃って12ポイントでシリーズリーダーとなっています。しかし、ここまでの2戦では中村選手ルノーサンクターボと志賀選手ロータスエランがそれぞれ1勝をあげて10ポイントを持っており、接戦を予感させます。今回のマウンテンクライム in 長谷には田中選手・中村選手が不在となり、独特の長谷のコースも相まって新たな選手がシリーズ上位に食い込んでくる可能性大です！



K (軽自動車) クラス : エントリー6台

軽量コンパクトな車体を駆るKクラスには6台がエントリー。ダイハツアッセ VS スズキツインの構図でマウンテンクライムを盛り上げてくれるでしょう。ポイントリーダーの北選手が不在の今大会を堺に、今シーズンの主導権を握るのはいったい誰でしょうか！？昨年は1-2を飾った小木田選手・松本選手の背後には浦原選手と代田選手、山地選手・桐山選手が待ち構えます。

ノービスAクラス : エントリー12台

コンパクトマシンがしのぎを削るこのクラス、今大会は12台の参戦となります。Kカーからコンパクトカーがしのぎを削るこのクラスですが、今回は多様な車種バリエーションにも注目です。シリーズトップの稲葉選手デミオが引き続き参戦しますが、追う立場の太目アルトワークス選手・赤松選手 S660 もエントリー。更にその後ろには塩田選手ヴィッツと富田選手ビートが迫っています。



ノービスBクラス : エントリー20台

国産スポーツコンパクトマシンが多勢を占め火花を散らすノービスBクラスは、栗原選手のフィットが前2戦でリードする展開ですが、それぞれ20歳のM2 ファクトリー三枝聖弥選手インテグラ・小池選手シビックがその後ろを追いかけます。ホンダ勢がエンジンパワーを活かして上位に食い込む傾向がありますが、ここ長谷のテクニカルステージでは大どんでん返しも起こる可能性があり、誰が勝つか予測不能な一戦です！

ノービスCクラス : エントリー27台

今大会クラス最多、なんと27台のエントリーとなったノービスCクラスは、今回も接戦が予想されます。シリーズ上位4名が1ポイント差ずつで挑む今大会ですが、勝利の栄冠は一体誰の手に渡るのでしょうか？ワインディングでは圧倒的アドバンテージを誇るエボ・インプの牙城を崩すのか、国産FRマシン勢とインポートマシン勢の猛追にも注目です。



オープンAクラス : エントリー7台

Sタイヤの使用が認められるオープンクラスでKカーとコンパクトカーが争うのがこのクラスです。小山選手カプチーノと原田選手アルトワークスが激戦を繰り広げている今シーズンですが、地元信州からは中村選手がスパルルクスを導入、さらに樫商店からは全日本ラリーチャンプ長谷川選手と山田選手が参戦します。さらにさらに、東日本ラリーチャンピオン"栗ママ"こと栗原選手と初参戦の珠玖選手が混じり、オープンAクラスは一気に盛り上がってきました！

オープンBクラス : エントリー8台

スティックなマシンたちが火花を散らすオープンBクラスには8台がエントリー。ノービスBクラスからこのクラスに移った種治選手がシリーズを牽引する立場ですが、永淵選手と八木選手が追いかける展開です。ときにはCクラスに割って入るタイムを叩き出すこのクラスから、今回も目が話せません！



オープンCクラス : エントリー7台

7台がエントリーするオープンCクラスは、ベテラン勢のいぶし銀な走りを期待！2連勝中の遠藤選手が勝ち越すか、それとも新たな勝者の誕生か、長谷の道で今シーズンの流れが決まりそうです。

EXTREME クラス

その名のごとく、エクストリーマーが頂点をかけて戦うこのクラス、一体誰が栄冠を手にするのでしょうか！？ハイパワーマシンたちが叩き出すタイムに要注目！

